

令和6年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立川田谷小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和6年4月18日(木)

4 調査の内容

(国語、算数) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語、算数とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



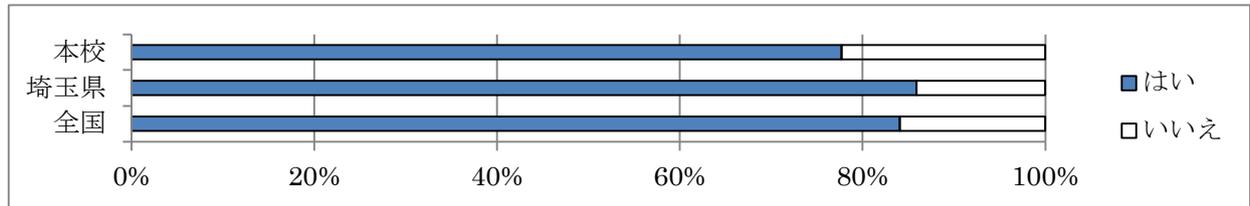
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	4	63.9	66.2	64.4
情報の扱い方に関する事項	1	81.5	87.5	86.9
我が国の言語文化に関する事項	1	74.1	75.3	74.6
話すこと・聞くこと	3	65.4	61.6	59.8
書くこと	2	72.2	69.2	68.4
読むこと	3	72.8	72.0	70.7

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	63.6	66.2	66.0
図形	4	63.0	67.1	66.3
測定	0			
変化と関係	3	54.3	51.7	51.7
データの活用	4	59.3	62.6	61.8

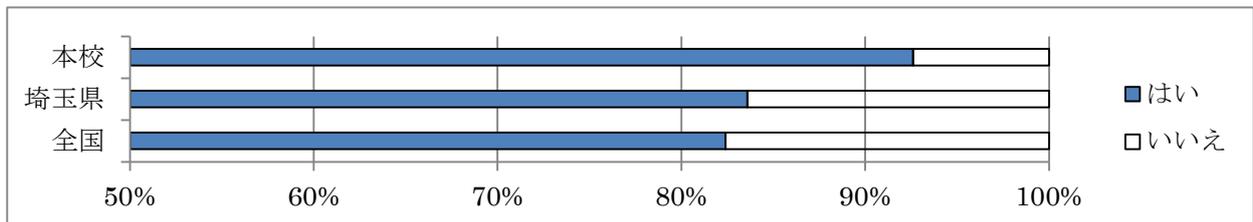
<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

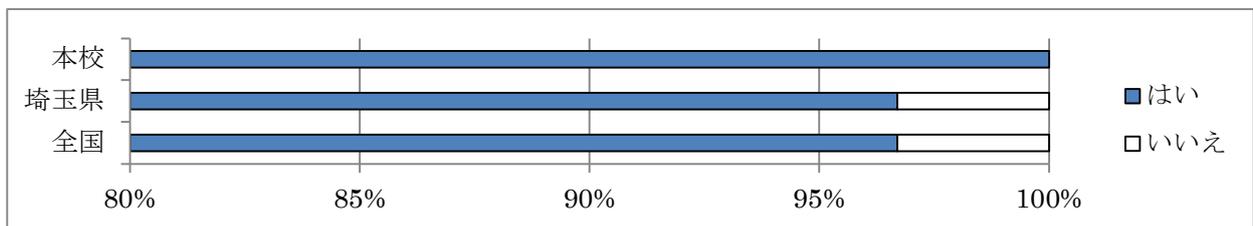
自分には良いところがあると思いますか。



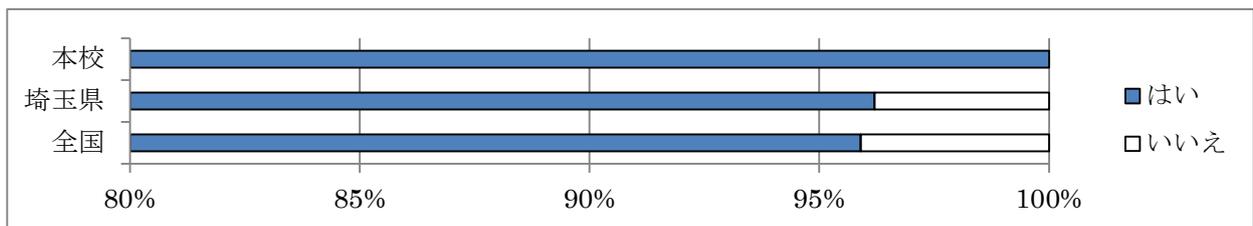
将来の夢や目標を持っていますか。



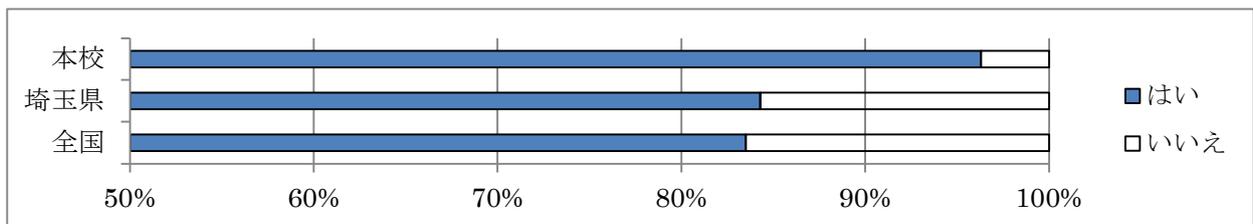
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

本校の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容で、県平均及び全国平均正答率を上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の内容で、県平均及び全国平均正答率を下回りました。

【問題の概要】問題番号〇の一

学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する

【問題の趣旨】

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題で、本校の正答率は、全国平均より6.9ポイント下回っています。

【分析】

本問では、海風小学校の和田さんと深緑小学校の村木さんが、学校の取り組みをオンラインで紹介し合う場面を設定しています。和田さんは、事前に村木さんから届いたメールの内容を受けて、紹介する内容をメモに整理し、そのメモを生かして、村木さんと交流しています。ここでは、和田さんの立場を通して、目的や意図、聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが求められます。また、オンラインで交流する場面において、事前に整理したメモを生かして、聞き手の求めに応じて即興的に話し方を工夫することや、話し言葉と書き言葉との違いを踏まえた表現を工夫することも求められます。さらに、メモに整理したことが実際の交流場面において、どのように役立ったのかについて、ICT 機器を活用するなどして学習を振り返り、自覚することも求められます。

【今後の指導の重点】

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが大切です。

話すことにおいては、自分の目的や意図に応じるとともに、聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることに重点を置きます。紹介する内容を「自分が伝えたいこと」と「相手が知りたいこと」に分類した上で、「これは伝えたい」と「質問されたら答える」というような優先順位を決めて、メモ等に整理していく活動を行っていきます。相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にしていることを捉えられる力をつけていきます。

<算 数>

【領域別】

本校の平均正答率は、「変化と関係」の内容で、県平均及び全国平均正答率を上回り、「数と計算」の内容で、県平均及び全国平均正答率を下回りました。

【問題の概要】問題番号5の(2)

示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く

【問題の趣旨】

簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる問題で、本校の正答率は、全国平均より10.3ポイント下回っています。

【分析】

目的に応じてデータを収集し、データを整理する観点に着目して表を用いて分類整理することができるようにすることが大切です。

本設問では、簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかを問うています。ここでは、4つの市の中からC市を選び、3月と4月のどちらで開花日が多かったかを調べるために、3月と4月に着目し、落ちや重なりがないように数えることが必要です。

【今後の指導の重点】

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて必要なデータを収集し、表やグラフに表し、身の回りの事象を数学的に考察することが重要です。

そのために、例えば、興味・関心や問題意識に基づき、必要なデータを収集し、分類整理したり、表や適切なグラフに表したりして、統計的に問題を解決できるようにしていきます。

また、問題を解決するために、条件や情報を解釈し、数学的に表現し、判断することを課題として取り組んでいきます。

<質問紙調査から>

【質問番号（9）】

<質問>

自分には、よいところがあると思いますか

<回答>

「当てはまる」と回答した児童は44.4%であり、全国平均より1.0ポイント低い数値を示しています。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答をした児童の割合は77.7%で、全国平均より6.4ポイント下回っています。

- 「自己肯定感」「自己有用感」を感じることができない児童が多いという結果を表しています。

何かを成し遂げて自信をつけたり、自分の頑張りを認められたり、人とのかかわりの中で感謝されたりといった体験が求められています。

学校では一人一人の子どもに活躍の場や教師や仲間から認められる場を意図的に設定していきます。学校、家庭、地域と場所を問わず今まで以上に目を向け、認め励ましていくことが大切であると考えています。

【質問番号（13）】

<質問>

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

<回答>

「当てはまる」と回答した児童は、88.9%であり、全国平均より9.4ポイント上回っています。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答をした児童の割合は100%で、全国平均より3.3ポイント上回っています。

- いじめを生まない学校にしていくには、全ての学校で温かな人間関係に支えられた支持的な風土を醸成することが重要です。

本校では、毎月、「川小人権の日」としていじめに関するアンケート調査を実施しています。児童がよりよい、そしていじめを生まない学級にするために学級目標やルールについて話し合い、確認し合うことを積み重ねています。

児童が主体的に児童自身の問題への気付きから、現状を確認し合い、話し合い、主体的にルールを見直す活動を今後も継続していきます。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和6年5月15日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
言葉の特徴や使い方	13	60.6	63.1	14	63.7	65.1	15	57.4	62.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	52.1	41.8	3	48.6	53.1	2	51.9	55.3
話すこと・聞くこと・書くこと	9	47.7	45.5	6	58.6	51.6	5	42.3	52.1
読むこと	4	43.8	39.9	8	51.4	48.0	9	43.6	49.4
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑		↑	↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
数と計算	13	61.5	65.5	14	45.4	50.9	13	51.8	56.1
図形	6	48.7	56.1	8	62.8	64.0	8	44.2	51.3
4年測定 5,6年変化と関係	6	60.0	63.2	6	52.3	48.6	7	57.7	58.8
データの活用	6	65.3	62.1	4	51.4	48.0	5	26.2	25.8
※学力の伸びた児童の割合					↑↑	↑↑		↑↑	↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	93.5	94.2	94.3
		88.0	91.9	92.3
	② 授業の開始時刻	87.1	91.5	93.4
		84.0	91.9	92.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	78.5	82.4	84.9
		84.0	75.7	96.2
○礼儀正しく人と接することができる	④ 整理整頓	73.8	76.8	76.0
		72.0	78.4	76.9
	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	75.9	77.6	77.9
		88.0	75.7	69.2
	⑥ 返事	91.6	91.6	90.1
		92.0	94.6	76.9
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
⑦ ていねいな言葉づかい	83.2	88.8	88.2	
	84.0	89.2	73.1	
⑧ やさしい言葉づかい	82.7	86.7	84.5	
	80.0	78.4	57.7	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	80.4	85.7	86.2
		80.0	89.2	65.4
	⑩ 話を聞き発表する	77.7	79.2	76.0
		84.0	78.4	53.8
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	88.3	88.5	86.7
		84.0	81.1	76.9
⑫ 掃除・美化活動	89.5	89.6	87.9	
	88.0	86.5	76.9	

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

授業での取組

☆■ 「学びの共同体」に取り組み、ペア・グループ活動を位置づけ、互いの意見を聞き話し合うなど、個々の考えを大切にし、意見交流する時間を確保します。周りの人に分からないところを徹底的に聞いたり、小グループでの発表を積み重ねたりする中で児童自身の力を高めていきます。

授業以外の取組

☆■ タブレット端末を積極的に活用し、自主学習を励行し、学習した知識を生かしたり、興味・関心に合わせた取り組みをしたりできるようにし、児童の意欲を高め、学びを深めます。

P

保護者・地域の皆様へ

日頃より、川田谷小学校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

昨年度より川田谷小学校の目指す学校像は、「きき合い つながり合い 学びを楽しむ 川田谷小」に一新され、これまで以上に、児童が充実した学校生活を送ることができるように取り組んで参ります。ご家庭や地域においても、挨拶や返事、会話を通して児童とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

今年度の調査結果からは、児童が時間や場所を意識して行動する姿が見られましたが、自ら進んであいさつすることが課題として挙げられます。今後も、ご家庭で規則正しい生活習慣を身に付けさせるとともに、相手に応じたあいさつや言葉遣い、公共の場での態度などの指導にご協力ください。

また、学校から発進する各種のお手紙や授業で取り組んだもの、宿題などに目を通していただき、内容についてお子さんと確認していただけますと助かります。今後とも引き続き、保護者、地域の皆様のご支援、ご協力をよろしく願いたします。

令和6年度 学力向上全体計画

桶川市立川田谷小学校

- ・関係法規
- ・学習指導要領
- ・埼玉県小学校教育課程編成要領
- ・埼玉県教育振興基本計画
- ・埼玉県指導の重点
- ・桶川市 学校教育 指導の重点 等

学校教育目標 『自主的・主体的にやりぬく子』

- ・かしこい子
- ・思いやりのある子
- ・たくまいい子

- ・地域の実態 ・児童の実態
- ・保護者の願い ・教師の願い
- ・期待される児童像
- ・学力向上に係る本校の課題

【めざす学校像】 「きき合い つながり合い 学びを楽しむ 川田谷小」

学びの共同体

各種調査結果

学校課題児童アンケートより

- 1 学校が楽しい 94%
- 2 授業が楽しい 91%
- 3 友達や先生の話
しっかりと聞く 95%
- 4 問題や課題に対して
しっかりと考える 89%
- 5 自分の考えを相手に
伝える 84%
- 6 わからないところが
あったときは、友達に聞くこ
とができる 89%
- 7 友達となかよくすること
ができる 96%

埼玉県学力・学習状況調査

【学力レベル 国・算】

- ☆4年生 5-A・4-B
- ☆5年生 6-A・5-B
- ☆6年生 6-B・6-C

全国学力・学習状況調査

【全体平均正答率】

- 国語 69% 算数 62%
(児童質問紙調査より)
いじめは、どんな理由があ
ってもいけないことと思
いますか。
肯定的な回答→100%

一人残らず、すべての児童が
よりよい人間関係を築き、楽しく学ぶことを目指す

実施一斉授業スタイルからグループ学習活動形態中心へ

① **学びの環境整備** … 子供たちがきき合える環境
(1・2年)2人ペア・コの字型 (3~6年)3~4人のグループ

児童主体の学習スタイル 『ジャンプ課題』の設定

② **学びのデザイン** … 子供たちがきき合える環境
「共有(基本)の学び」と「ジャンプ(発展)の学び」

「わからない」「できない」を分ち合える学習集団の育成

③ **探求と協同** … 学級全体が「学び合う」
グループ活動はきき合いにする



各教科の指導の重点

- 各教科**
- 言語環境の整備、言語活動の充実、情報活用能力の育成
 - 体験活動の充実、探究活動の推進
 - 学習を見直し、振り返る活動の定着
- 国語**
- 教材文を正しく読む力を高める指導
 - 必要な語句を用い、根拠に基づいて自分の考えを伝える力を高める指導
- 算数**
- 自分の考えを数学的な表現を用いて表現する力を高める指導
 - 数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて表し、式と図を関連付けて読む力を高める指導
- 特別の教科 道徳**
- 答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、考え、議論する力を高める指導
- 外国語活動・外国語**
- 主体的に楽しくコミュニケーションを取る力を高める指導
- 総合的な学習の時間**
- 主体的・協働的・探求的な学習を通して、教科横断的な学習の仕方を身に付けさせる指導
- 特別活動**
- 学校や学級の課題を見出し、よりよく解決するため話し合っ合意形成する力を高める指導
 - 主体的に組織を作り、役割分担して協力し合う力を高める指導

Plan (計画)

- ①課題を改善するための計画
- ・全国学力・学習状況調査、埼玉県学習状況調査等の分析、指導計画、指導方法等の改善策の立案
 - ・全職員の共通理解、共通意識
 - ・保護者、地域への広報活動

Do (実践)

- ②計画に基づく指導の実践
- ・全職員共通理解・共通行動による指導の実践
 - ・各教科等における指導の実践
 - ・校内研修の充実と実践
 - ・保護者、地域への啓発と連携

Action (絞り込み)

- ④課題の絞り込み
- ・新たな課題の確認と分析
 - ・次年度の教育計画への位置付け
 - ・課題解決プランの見直しと改善
 - ・校内分掌体制の見直しと再構築

Check (検証)

- ③効果の検証
- ・多面的な児童の実態把握
 - ・学校評議委員会、学校評価、学校アンケート等による教育活動の成果と課題の把握
 - ・校内研修での成果の検証

授業改善の視点(具体的取組)

	I	II	III	IV
観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	保護者・地域との連携を通して
養	○基礎・基本を定着させる場の設定 ○指導方法や指導形態の工夫改善	○教育課程の趣旨の共通理解と確実な実施 ○指導計画、教材等の整備	○児童のよさや学習状況の積極的な評価	○家庭や地域社会との連携 ○幼小中等相互の交流(保育園との交流、中学校訪問、小中連絡会)
職	・少人数指導 T.T. ・教材研究の充実 ・言語活動の充実 ・ICT 機器の効果的な活用 ・公開研究会、焦点授業の実施	・年間指導計画の見直し ・学校課題研究の取組 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ・教科横断的な学習	・カリキュラムマネジメントの推進 ・PDCAサイクルの確立 ・評価規準の整備 ・評価計画の作成 ・児童アンケートの活用	・保護者との連携・協力 ・学校応援団との連携強化 ・あいさつ運動 ・学校の情報公開(情報メール、HP等)

具体的方策

I 指導内容・指導方法の工夫

【目指す協同的な学びのルール】

- ①「子供たちが夢中になって学び合っている授業」
- ②「全員が参加している授業」
- ③「誰一人おいていかない学び」

【すべての教科における学びのデザイン】

- 活動のねらいを明確にし、児童の主体性を大切にする学びのデザイン
 - ・ きき合い、学び合い、お互いに高め合う授業デザイン
 - ・ 「共有（基本）の学び」と「ジャンプ（発展）の学び」
- 学級全体が「学び合う」、探求と協同を深める学びのデザイン
 - ・ グループ活動できき合い、「わからない」「できない」を分かち合える学習集団の育成



【学習環境の整備】

- 実施一斉授業スタイルからグループ学習活動形態中心へ
 - ・ 子供たちがきき合える環境づくり
 - ・ (1・2年)2人ペア・コの字型
 - ・ (3～6年)3～4人のグループ型
- ユニバーサルデザインへの取組
 - ・ わかりやすく、簡潔・明瞭な指示
 - ・ 余計な情報が目に入らない掲示(教室前面)
- 規律ある態度の育成
 - ・ 川田谷小よい子のやくそく
 - ・ 教室の整理整頓、きれいな学校の意識化

【学校生活の充実】

- 不登校ゼロ・いじめの根絶
 - ・ 「川小人權の日」のアンケート実施
 - ・ 教育相談日の活用
 - ・ SC、スマイル相談員との連携
- 児童会活動の充実
 - ・ 児童の自主的・主体的な取組（朝のあいさつ運動、児童集会、なかよしタイム等）
- 読書活動の推進
 - ・ 「朝読書（べにばな読書）」の計画的実践
 - ・ 読み聞かせの実施
 - ・ 電子図書の活用

(国語)

- 児童が見通しをもち、主体的な学びをつくる
 - ・ 児童が目的を明確にして単元の学習を進めていく
- 単元を通して言語活動を位置付けた学び
 - ・ 言語活動を行う過程が、児童にとっての課題解決の過程となるようにし、主体的な思考・判断を伴う学びを成立させる
- 自分の考えを広げたり深めたりさせる学び
 - ・ 相手の考えを否定や批判をせず、受け入れながら自由に考えを出し合い、知識や考えの幅を広げる

(算数)

- 子ども同士の「対話的な」学び
 - ・ きき合いを中心に学び合い、数学的な表現で表す
- 数学的活動の充実
 - ・ 自らの思考過程を振り返り、新たな疑問を見つけるといった問題解決過程の充実
- ICT 端末およびデジタルドリルを活用した基礎基本の定着
 - ・ 反復練習、習熟度に応じた学習

II 教育課程への対応の工夫

- 教師の働き方改革に配慮した教育課程の編成・実施（授業時数の適正化、弾力的な時間割・指導計画の作成）
- 学校が作成する計画等の見直し（教職員間での業務を見直し、校内における分担の見直し）

III 学習評価活動の工夫

- 「カリキュラム・マネジメント」の推進
 - ・ 教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立
- 年間指導計画に基づいた評価規準の見直しと改善
- 評価計画の作成
 - ・ 形成的評価・個人内評価を行い、個に応じた指導と見届け
 - ・ 適切な評価・評定を実施するための評価規準の作成（共通理解・共通行動、保護者への根拠ある説明）

IV 保護者・地域との連携を通して

- 学校だより・HP・メール配信等を活用し、本校の取組や活動を伝え、保護者・地域との情報共有・連携を図る。
 - 懇談会、個人面談、教育相談日等の活用
 - 規則正しい生活
 - ・ 早寝、早起き、朝ご飯 ・ あいさつ、言葉づかい
 - 宿題と学校での取組の連携
 - ・ 音読カード・自主学習ノート
 - 家庭学習の工夫・充実
- 学校運営協議会
- 学校応援団（学習・環境・防犯）
- PTA への協力をお願い（運動会・市内行事）
- ボランティアの活用（学習支援・読み聞かせ）
- 保幼小・小中高連携の取組